

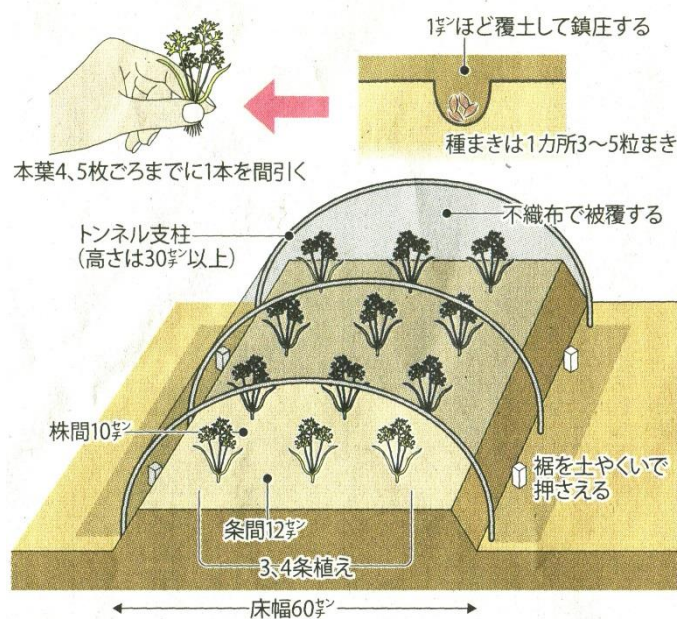
不織布使い10月まき

—藤崎 成博

ニンジンにはβカロテンを多く含む栄養、機能性の高い野菜です。最近では肉質が柔らかくニンジン臭の少ない西洋系が主流となっており、煮物など調理用のほか、ジュースなど多くの用途に利用されています。

夏季は北海道などの冷涼な地域、冬季は関東以西の温暖な地域を中心に全国的に栽培されています。鹿児島県の一般の露地栽培では8月下旬～9月下旬にまきますが、今回は台風、長雨等の影響で種まきが遅くなった場合でも、10月まきの春どり栽培が可能な不織布被覆栽培を紹介します。

春どりニンジンの栽培



ニンジンには肥よくな土壌を好み、発芽適温は15～25度です。乾燥した土壌では、発芽が著しく不良となります。サツマイモやキュウリなどの跡に栽培する場合は、それらの根にこぶができるセンチウ被害が出ていないか確認します。こぶが見られる場合は、畑を変えましょう。

種まきの適期は裸地栽培で10月上旬～中旬、黒マルチ栽培で10月下旬です。品種はとう立ちの遅い(晩抽性)『時なし』や、『四季どり』などが適しています。

畑には、1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥2キロ、化学肥料100グラム(チッ素、リン酸、カリ成分15%の場合)を目安として施します。また、耕うんは、また根(岐根)を防ぐため

に4回以上行い、十分に碎土します。

うね幅は110センチ(床幅60センチ)株間10センチ、条間12センチの3、4条植えとします。種まきは1カ所3～5粒まき、1センチほど覆土して鎮圧します。種まき後はトンネル支柱を立てて不織布で被覆し、その裾を土やくいで押さえましょう。また、本葉4、5枚ごろまでに1本を間引きします。間引き時期が早すぎると風雨の影響を受けやすく、遅すぎると茎葉が徒長したり、根同士が巻き付き傷つくので、気をつけましょう。

ハスモンヨトウやアブラムシ類の害虫防除は、間引き時まで忘れずに行います。3月以降で気温が15度以上になると、とう立ちが早まるので不織布を除去しましょう。収穫期は3月中旬以降で、根重が100グラム以上となる時期が目安です。

不織布ととう立ちの遅い品種で、春どりニンジンに挑戦してみましよう。

(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室専門研究員)